

アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第56号 平成31年2月14日発行



金武の集落の戦災を受けた校舎  
1946年12月12日 米海軍写真資料 29 [114-31-2]

1924年（大正13）に竣工した金武小学校校舎は、当時としてはめずらしい鉄筋コンクリート建築でした。海外移民からの募金も工費に活用され、完成した校舎は移民村・金武の名所となりましたが、1945年（昭和20）3月下旬、米軍の空襲により校舎の一部が損壊しました。その翌年に米軍が撮影したこの写真には、モクマオウが茂る通学路や茅葺き屋根の民家が校舎後方に写り、当時の並里集落の様子を伝えています。

## 公文書館所蔵資料あんない 第一回

### 沖縄県文書 ○

❖ 児童福祉施設の設置等の認可に  
関すること

児童家庭課／青少年婦人課等文書

当館の所蔵資料は、大きく四つの資料群に分かれます。沖縄県を出所とする「琉球政府文書」と「沖縄県文書」、沖縄県以外の団体や個人を出所とする「米国収集資料」と「沖縄関係資料」です。

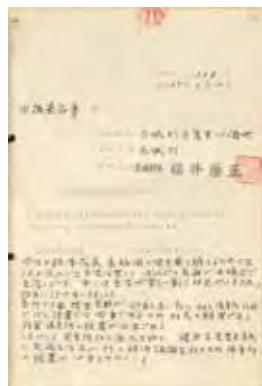
今回は「沖縄県文書」をご紹介し

ます。

### 沖縄県文書とは

「沖縄県文書」は、一九七二年（昭和四十七）の日本復帰以降、沖縄県の機関が作成または取得し保管していた公文書等です。沖縄県文書は各機関での保存期間が満了すると、文書規程に基づいて当館に引渡されます。

当館は、その中から後世に残すべき重要な公文書等を選別し、利用に供しています。



児童福祉施設設置認可申請書 玉城村 玉城保育所  
昭和 49 年 3 月 14 日 [0000067396]

❖ 沖縄県交通方法変更（通称  
730ナナサンマル）に伴う道路  
施設の事前調査に関する文書

道路維持課／道路課文書

沖縄の日本復帰にともない、交通方法がアメリカ方式から日本本土と同じ車両左側通行に変更することとなりました。この変更は、実施日が一九七八年（昭和五十三）七月三十日であったため「ナナサンマル」と呼ばれています。

道路標識やバス停、バス・タクシー車両の切替など大規模な施設整備が実施されました。それらの工事関係や変更前後の調査報告書など四九六点の目録を公開しています。



沖縄県の交通区分変更に伴う道路施設変更の再点検について 金武村  
昭和 52 年 3 月 23 日 [0000122160]

❖ 市町村の廃置分合及び行政区画・  
名称の設定に関すること

地方課／地域離島振興局（課）／  
市町村課等文書

廃置分合とは、合併など市町村の新設または廃止を伴う区域の変更をいいます。沖縄県は「地方自治法」により、市町村が提出する廃置分合及び境界変更の申請について県議会の議決を経てこれを定め、主務大臣に届け出て、主務大臣が告示します。また、県は、町・字の区域や名称の設定（廃止、変更）及び新たに生じた土地を確認する市町村からの届出書を受理し告示します。これらの事務に係る文書六十六点の目録を公開しています。



字の区域の変更について (伺い) 勝連町  
昭和 57 年 2 月 15 日 [0000103171]

## ❖ 日米地位協定の見直し及び基地の整理縮小に関する県民投票に

### 関する文書

平和推進課／基地対策室（課）／  
基地涉外課文書

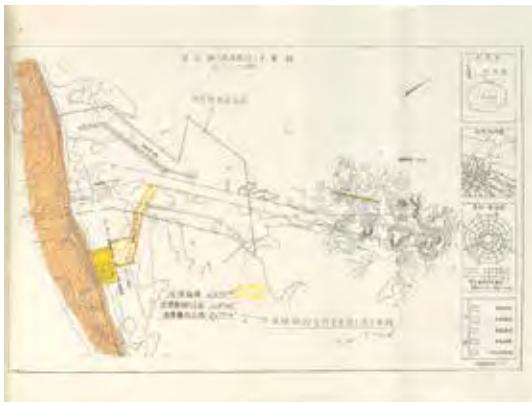


チラシ [0000126103]

一九九五年（平成七）に発生した米兵による少女暴行事件以降、在沖米軍基地問題に注目が集まる中、一九九六年（平成八）九月八日、沖縄県は県民投票を実施しました。投票率は五九・五三%、うち基地整理・縮小と日米地位協定の見直しに賛成が八九・〇九%という結果でした。実施計画や市町村別投票所一覧表、アンケート調査結果、広報用ポスター、ラジオ音源など二〇七点の目録を公開しています。

## ❖ 漁場内の岩礁破碎等の許可にすること

### 漁政課／水産課文書

前泊港（多良間村）平面図  
岩礁破碎等許可関係 昭和 63 年度 [0000103761]

漁業権の設定されている海域で岩礁を破碎し、または土砂もしくは岩石を採取する場合、申請者は「沖縄県漁業調整規則」に基づき、岩礁破碎等の許可申請書を沖縄県に提出します。この時、漁場に係る漁業権者の同意書を添付します。県は、水産資源の保護培養または漁業者への影響等を審査して、岩礁破碎等の適否を決定します。その際に必要な制限又は条件をつけます。これらの許可に関する文書一二六点の目録を公開しています。

## ❖ 不発弾処理事業にすること

### 消防防災課／防災危機管理課文書

一九七五年（昭和五十）、国、沖縄県、警察本部、市町村代表などで構成する「沖縄不発弾等対策協議会」が発足し、埋没不発弾等処理事業を実施しています。同協議会は、県民からの不発弾埋没情報をもとに毎年度の処理計画を決定します。同県は、国の不発弾等処理交付金によりて埋没情報箇所の磁気探査、異常反応地点の掘削、不発弾の存否確認、処理、埋戻しをします。この業務に係る埋没不発弾等処理事業報告書など二九七点の目録を公開しています。

## ❖ 都市計画区域の指定及び都市計画の決定にすること

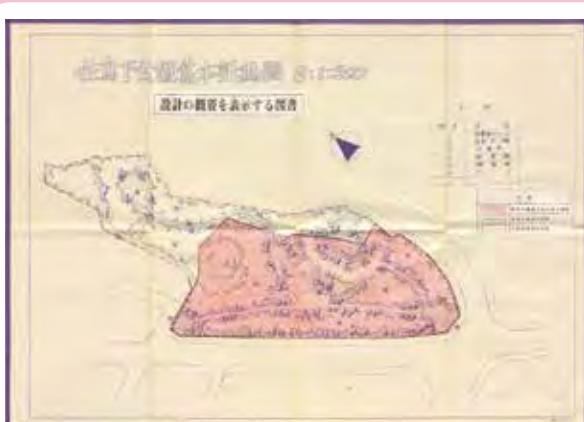
### 都市計画課文書

沖縄県は「都市計画法」に基づき、総合的に整備、開発し、保全する必要がある都市計画区域を指定し、その区域における土地利用のあり方、都市施設（道路・公園等）の整備、市街地開発等の都市計画を決定します。その際、関係市町村及び沖縄県都市計画審議会の意見を求め、国と協議し認可を得ます。

県から国へ提出する都市計画区域指定認可申請に係る文書八九八点の目録を開いています。



埋没不発弾等処理事業個別報告書(10) 昭和 52 年 3 月 [0000077625]



佐真下公園基本計画図 昭和 62 年度 [0000114295]

一九五四年（昭和二十九年）、琉米親善とチャリティー活動の目的で、女性たちが沖縄国際婦人クラブ（以下「クラブ」）を結成しました。当館は関係文書の寄贈を受けて整理を進めています。当時のクラブで活動した瀬古直子さん（八十六歳）にお話を聞きました。



私は一九六三年（昭和三十八年）頃まで七年間クラブの書記をした。普通の任期は二年だけど、残つてくれって。私はスロットマシンもしなくて眞面目だったから、アメリカのご婦人方に信頼されていたんでしよう。

戦争中は宮崎に疎開しました。後で沖縄に引き揚げて驚いたのは、高等学校がたくさんできていたこと。北は辺土名から

## 瀬古直子さん

南は糸満、そして久米島とかの離島にもね。これは米軍の恩恵でしうね。私は那覇高校から東京の文化服装学院を出て、洋裁で身を立てました。のちに夫が宜野湾で輸入家具を扱う店を始めた縁でクラブに誘われました。

クラブのミセス・フライマス（USCAR 涉外部長夫人）とはとても仲が良くて、私の車でドライブして、恩納の海岸でお弁当のおにぎりとサンドイッチを交換したり。クラブにいたアメリカの奥様方はボランティア精神だけでなく品も教養もあつて、いろんなことを教えてもらつた。

私の時のクラブの議事録は残っていないようだけど、写真もこれだけ残つていたら上等。懐かしいものを見せてもらいました。



役員選出用紙に残る瀬古さんの名前

# 行事報告

## ● 公文書管理講座

**相模原市の公文書館のつくりかた**  
講師 飯田生馬（相模原市立公文書館長）



説明がとても具体的でわかりやすかったです。民間の書庫の活用や文書作成の段階から選別をさせる等の工夫がすごいと思いました。職員の頑張りは大変だったのではないかと感じました。

（読谷村・40代）

2018  
9/28

## ● 上映会2

**「海外雄飛」を夢見て**

胸がつまるような気持ちです。苦しくなってきますね。真実とそうでない事もあるのかな。世界へはばたいて行った人々に対して尊敬の気持ちがいっぱいです。人生を考えさせられる映写でした。ありがとうございました。（那覇市・60代）



2018  
10/27

## ● 資料保存講習会 映画フィルムの保存と活用

講師 鈴木和伸・松信秀明  
(株式会社 東京光音)



2018  
12/8

## ● 断片的だった情報がきちんと流れで理解できました。一般家庭での保存は難しいと思いますが、情報があるなどでは対応が変わってくると思う。

保管については写真フィルムでも参考になる点があり、仕事の整理でも使えそうだとthoughtいました。

（うるま市・50代）



# シマめぐり沖縄

## 第 10 回 金武町

金武町は、沖縄島中央部の東海岸に位置し、5つの行政区からなる人口11,573人（平成30年12月31日現在）、面積は37.57km<sup>2</sup>の町です。移民の父と呼ばれる當山久三の出身地であり、戦前はハワイをはじめ、北米・中南米・フィリピンなどへ多くの海外移民を送り出しました。



移民翁當山久三氏之銅像  
「金武名所繪葉書」より [T00016123B]



Encampment of the Exploring Party in Lew-Chew 1856年刊  
岸秋正文書 [T00012502B]

金武には出発から三日後に到着。金武番所で一泊し、金武觀音寺や金武番所の様子を記録しており、金武番所は今まで見たどの建物よりも大きく立派で、私宅らしく花園もあり、素馨（ヤスミン）の垣で囲まれた召使の家も別にあつた、とあります。

艦隊付きの画家・ハイネが描いた金武番所には村人の姿も見られます。当時の金武の人びとは異国人をどのように見たのでしょうか。

沖縄戦時、米軍は日本本土攻撃を見越して金武飛行場を建設しました。終戦後、一九四七年（昭和二十二）より米兵の射撃演習場として利用されました。

これに対し、金武・屋嘉・嘉瀬武原の住民は、同年六月十七日、「米軍練兵場設置中止方ニ関スル件」と題した陳情書を提出しました。陳情書では、飛行場設置のため農地が激減し残存地も農耕不能となれば生計を維持できない、予定地は「金武村の生命線」というべき場所であると訴えていました。さらに、予定地は地元だけでなく、中頭・島尻へも資材を供出する重要な山林です。さるに、予定地は地元だけでなく、キャンプ・ハンセンとなり、現在も米軍の演習が行われています。

### 金武町移動展開催します

#### 〔開催日時〕

平成31年3月12日(火)  
～18日(月)

#### 〔場所〕

金武町立中央公民館  
(中ホール)

入場無料！



松岡政保行政主席 中南米訪問報告会 金武並里公民館 1967年11月  
琉球政府関係写真資料083 [023305]

第四代琉球政府行政主席の松岡政保は、金武町並里の出身です。ハワイ移民の経験を持つ松岡は、主席在任中の一九六七年（昭和四十二）、九月二十日から十月二十六日までの約一ヶ月にわたり中南米を訪問し、各地の沖縄移民を訪ねました。

帰国後、金武村並里公民館で中南米訪問報告会を開催。多くの住民が参加し、写真に見る様子や松岡の報告を熱心に聞く姿が、琉球政府の広報写真に残っています。



米軍練兵場設置中止方ニ関スル件  
陳情書1 1946年10月～1949年5月 琉球政府文書 [RDAE000193]

# 琉球列島米国民政府文書の収集と公開 —USCAR プロジェクト完結までの 20 年



当館が約 20 年の歳月をかけて取り組んだ「USCAR プロジェクト」が、平成 30 年 11 月 28 日の琉球列島米国民政府法務局文書の公開をもって完結しました。

琉球列島米国民政府 (The United States Civil Administration of the Ryukyu Islands) は、沖縄が 1945 年（昭和 20）から 27 年間にわたって米国統治下にあった時代に、沖縄に君臨した米国の行政機関で、USCAR はその略称です。USCAR プロジェクトは、USCAR が 1950 年（昭和 25）に設立されてから沖縄の施政権返還により解散するまでの間の統治の記録を、米国国立公文書館から収集し利用に供することを目指してスタートしました。

当館は、東京にある国立国会図書館との共同事業として、平成 9 年 12 月から正式にこのプロジェクトに取り組みました。一日約 4,000 頁の文書を撮影してマイクロフィルム化し、最終的に約 340 万頁もの文書を複製で収集しました。その後、検索の便宜を図るためデータベースに登録し、文書に含まれる個人情報の利用制限を判定したうえで順次、国立国会図書館と当館において公開してきました。

USCAR は、軍司令官でもある高等弁務官を最高権力者とし、「帝王」と呼ばれたその強大な権限を背景に、琉球政府行政主席の指名・任命権、琉球立法院の制定した法律の拒否権、統治に不利となる裁判の移送権などを行使して沖縄を統治しました。米国統治下の沖縄には日本国憲法も合衆国憲法も適用されず、大統領行政命令や USCAR が発

する布令・布告が、住民生活のあらゆる面を規制しました。USCAR 文書は、メモ、電文、書簡、報告書、法令、契約書類、会計書類、図面、写真、スクラップ、出版物などを含み、活動の明確な記録となっています。また、前身機関である軍政府の文書や琉球政府及び日本政府との往復文書なども残り、当館が所蔵する琉球政府文書と「車の両輪」を成すものと位置づけることができます。USCAR 文書は、沖縄の現代史はもちろんのこと、冷戦あるいは東アジア研究における一級資料と言えます。

この意義を認識してプロジェクトへの道筋を作ったのが、当時の大田昌秀沖縄県知事や宮城悦二郎館長をはじめとする当館の職員でした。鉄血勤皇隊の生存者である大田元知事は、大学教員となって長年沖縄戦研究に従事し、県知事に就任する前の 20 年間、琉球大学の同僚だった宮城元館長とともに米国国立公文書館に通って米側記録の発掘に没頭しました。アーカイブズの重要性を知るこうした人々の尽力によって沖縄にもたらされた膨大な記録が、波乱の道を歩む沖縄の未来への道標となることを願ってやみません。



USCAR プロジェクトのスタッフ  
米国国立公文書館 (NARA) や国立国会図書館の職員、マイクロフィルム撮影技師などを含む様々なスタッフがプロジェクトを担った。



米国国立公文書館 (NARA) での資料撮影



目録情報をデータベース化する

## ● USCAR 部局別にみる収集及び公開実績

公開年度	シリーズ	公開コマ数	収集年度
1998	公益事業局	164,447	1997
	民政官府（宮古・八重山）	20,341	1997
	文書の来歴に関する資料	8,273	1997
1999	高等弁務官室	21,676	1998
	高等弁務官に対する諮問委員会	7,265	1998
	復帰準備委員会（米国側）	28,956	1998
	民政官室・副民政官室	8,178	1998
	厚生教育局	286,535	1997~1998
	渉外局	273,517	1998
2000	総務室	251,838	1999
	計画局	433,876	1999~2000
2002	経済局	250,108	2000
2003	広報局	387,286	2002~2003
2006	労働局	136,319	2000
2008	公安局	150,332	1999
2016 ~ 2018	法務局	1,056,026	2000~2002
公開コマ数合計		3,484,973	

沖縄県公文書館所蔵資料展

# むかし沖縄 戦前の資料 あれこれ



書簡 内務卿伊藤博文より沖縄県令鍋島直彬宛 松岡家寄託資料

初代沖縄県令の鍋島直彬は「琉球処分」直後の 1879 年（明治 12）5 月に着任。琉球土族は新県政に激しく抵抗しており、伊藤博文内務卿（のち総理大臣）は、明治 12 年 10 月 8 日付けのこの書簡で、彼らが恭順の意を示したとしても、安易に信用せずに厳重に監視するよう、鍋島に告諭した。



丸岡知事公演説 西常央文書 [0000087151]

丸岡莞爾は 1888 年（明治 21）に着任した沖縄県知事。本資料は、着任当初の丸岡が役所長級の幹部を集めて行った演説の速記録とみられる。沖縄県人を「夢にも外国人視することなく十分町寧にすべし」と心がまえを説いた。



興行芝居筋書 沖縄芝居興行許可添付資料

宮城亀都氏寄贈 [0000010108]

芝居の脚本は警視庁の事前審査を受けた。本資料には、首里警察署の 1930 年（昭和 5）9 月の受付印があり、上部の欄外に「昭和 5 年 4 月 1 日許可ス」との記載がみえる。脚本の内容は当時の世相を生き生きと伝えている。

●開催中！ 5 月 12 日まで会期延長 ●入場無料

平成 30 年は明治改元 150 年、平成 31 年の今年は、1879 年（明治 12）のいわゆる「琉球処分」から 140 年の節目を迎えます。琉球王国から琉球藩、そして沖縄県へ。当館では、薩摩侵攻から沖縄戦直前までの琉球・沖縄の足どりを、所蔵資料をもとに概観する「むかし沖縄」展を開催しています。その中から「琉球処分」以後の近代資料をいくつかご紹介しましょう。★〔 〕内は公文書館資料請求コードです。



記念帖 臨時沖縄県土地整理事務局発行

郡司恵美子氏寄贈 [T00022298B]

1902 年（明治 35）に完了した土地整理事業の記念写真集。土地整理とは、琉球独特の土地の共有制を廃止して個人の土地所有権を認め、地租を金納とする一大改革だった。本事業は、奈良原繁知事の功績のなかでも特筆され、その肖像が巻頭に掲載された。



感謝状 陸軍大臣東条英機より銘苅正太郎へ

銘苅正太郎文書 [0000015190]

銘苅正太郎は伊是名村出身の医師。1914 年（大正 3）、東京麻布に長生医院を開業し耳鼻咽喉科の名医で知られた。日本政府要人との人脈を活かし、沖縄の支援に努めたとされる。



八重山神社地鎮祭々文原稿 大濱用一文書 [0000011673]

1940 年（昭和 15）8 月、紀元 2600 年記念八重山神社建立奉賛会が結成された。奉賛会は現石垣市大川の大石垣御嶽を敷地に選定し、翌年には建設寄付募集を大々的に開始した。

# 第44回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 全国（沖縄）大会が開催されました。

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国大会が、平成30年11月8日と9日の2日間にわたり、那覇市の沖縄県市町村自治会館をメイン会場として開催されました。

沖縄大会のテーマは「アーカイブズ再考—その価値と活用—」。230人の参加者が、視察を含めた研修・研究のプログラムに参加し、懇親会や展示発表を通して交流を深めました。

大会テーマ研究会では、当館のとりくみについて「アーカイブズが社会にもたらすもの—琉球政府文書の利用状況から考える—」と題して、当館副館長の大城博光が報告しました。

全史料協の活動において長年功労のあった6人の会員の表彰や、「沖縄宣言」の採択といった特別プログラムも設定されました。

閉会セレモニーでは、沖縄県公文書館から、平成31年の開催地である長野県・安曇野市文書館へ、ミンサー織の文様をあしらったプレートが贈呈されました。この文様の意味は「いつの世までも」—。公文書館の使命にふさわしい言葉です。



沖縄県公文書館での視察研修



真栄城佳代子・沖縄県公文書館館長（左）より平沢重人・長野県安曇野市文書館館長（右）へバトンタッチ



企業・会員展示コーナーのにぎわい



大会テーマ研究会でのパネル・ディスカッション



「沖縄宣言」を読み上げる定兼学・全史料協会長



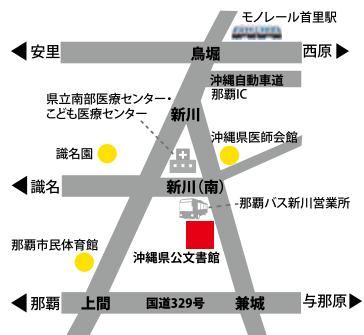
共催者として玉城デニー沖縄県知事の  
メッセージを代読する謝花喜一郎副知事

## 「沖縄宣言」の骨子

1. アーカイブズは、唯一無二の存在である！
2. アーカイブズを扱う専門職（アーキビスト）が必要である !!
3. アーカイブズは国民の権利を守る !!!

## 利用案内

- ▶ 開館時間：午前9時～午後5時（閲覧申請は午後4時30分まで）
- ▶ 休館日：月曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、6月23日（慰霊の日）
- ▶ 利用について：入館は無料です。書庫内資料の閲覧には「利用証」が必要です。  
「利用証」発行には、現住所が確認できる身分証明書をお持ちください。
- ▶ 交通案内：那覇バス 系統番号 1,2,3,4,5,12,14,15,16 「新川営業所」徒歩3分  
東陽バス 系統番号 191 「県立南部医療センター前」徒歩10分  
＊駐車スペースが限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



沖縄県公文書館だより ARCHIVES アーカイブズ 第56号

発行日：平成31年2月14日 編集発行：沖縄県公文書館指定管理者（公財）沖縄県文化振興会 公文書管理課

資料に関するお問い合わせはこちまで！

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川148-3 電話：098-888-3875（代表） 098-888-3871（閲覧室直通） FAX：098-888-3879